

【 演題名 】

新型コロナウイルス感染症後急性後遺症もしくはコロナワクチン接種後に発症した筋痛性脳脊髄炎・慢性疲労症候群の症例における症候スペクトラムと個別化診療アルゴリズム開発の基礎

【 要旨 】

我々は先行研究において、COVID-19 ワクチン接種後に筋痛性脳脊髄炎・慢性疲労症候群（ME/CFS）を発症した 28 例に血清 25(OH)ビタミン D（VD）不足/欠乏を認め、VD 補充療養指導により顕著に症状が改善することを見出し先行論文として報告した（Kodama et al. Nutrition 2025）。

本知見の検証を目的とし、ワクチン接種後症候群（PVS）および COVID-19 感染後遺症（PASC）として発症した ME/CFS 患者 91 例を対象に多施設共同ランダム化比較試験を実施した。介入群では 12 週時に ME/CFS 症状数が平均 6.7 個減少し（対照群 1.2 個）、16 例が診断基準を満たさなくなった（対照群 1 例）という有意な改善を認めた（Kodama et al. submitted/under review）。

しかしながら、ME/CFS は多彩な症状を呈し、VD 補充後も残存症状を認める症例が存在する。そこで我々は全症例の治療前後の症状スペクトラムをヒートマップにより可視化し、改善症状と残存症状のパターンを定量的に把握することで、個別化治療アルゴリズム開発の基盤を構築した。

本試験において介入群のスクリーニング時 739 症状のうち 286 症状（38.7%）が 12 週時に消失し、特に免疫症状（改善率 45.5%）、疼痛（39.1%）、睡眠障害（37.0%）の順で高い改善を示した。一方で、病的疲労などの改善が困難な症状もあり、これら残存症状に対する次段階の個別化治療を既に開始している。

本発表ではこれらの知見をもとに、VD をはじめとする栄養素の臨床的有用性を示すとともに、現行の推奨栄養所要量（RDA）を再評価する必要性を提起するものである。